

April 14, 1975

**Disarmament Office, United Nations Bureau,
Japanese Foreign Ministry, 'NPT Issue (Briefing of
Minister Miyazawa's Visit to the United States to
Directors of Concerned Divisions of the Liberal
Democratic Party)**

Citation:

"Disarmament Office, United Nations Bureau, Japanese Foreign Ministry, 'NPT Issue (Briefing of Minister Miyazawa's Visit to the United States to Directors of Concerned Divisions of the Liberal Democratic Party)", April 14, 1975, Wilson Center Digital Archive, Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan, File No. 2014-2755. Contributed by Yoko Iwama and Yu Takeda and translated by Ju Hyung Kim.
<https://wilson-center-digital-archive.dvincitest.com/document/250409>

Summary:

A summary of a meeting between Foreign Minister Miyazawa and several leading officials from the Liberal Democratic Party regarding Japan's ratification of the NPT.

Credits:

This document was made possible with support from Carnegie Corporation of New York (CCNY)

Original Language:

Japanese

Contents:

Original Scan
Translation - English

(第一案)

ファイル

★

御参考まで配布致します。
明二八日 NPT 批准問題に因する自民党
合同会談における宮沢大臣発言(一案)

参考配布

五〇、三、二七
国 軍

外務省

科学課長

官房長

アメリカ局長



1. 大臣秘書長
2. 官房長
3. 外務省
4. 科学課
5. 関係官

NPT問題(自民党関係部会長への宮沢大臣訪米の報告)

昭50.7.14

国軍

1. 14日自民党の(有田守保調査会長、北沢外交調査会長)

坂本外交部会長及び伊藤科学技術部会長が官

次大臣を来訪し(羽田野政務次官、大訂原官房長

、山崎アメリカ局長、教原軍縮室長

同席)。大臣の今次訪米の報告を行なわれた

他、今後のNPT批准のとりきりぶり等についても

協議が行われ、雑論として12日の関係部会

調査会の合同会談、~~問題~~大臣の改めて訪米の

報告を行ない、同会談における模様をみて、党の本件に対する最終的な取り扱いを次めること

蘇 蘇
外務省
印

外務省

Handwritten notes in Japanese, including a large rectangular box containing text. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.

なつた。(官房長) 再検討会前 開催前の
本件の国会提出が望まれるので、18日の合同

会談で是非結論を出していただく旨
要請(ト。)

2. 会談の概要 (実質的問題について) 次の通り。

① 官房大臣より 今次訪米の際、米國首脳との

安全保障問題についての話し合いにつき 列添の
「冒頭発言」に沿って説明され、あわせて次の実

補足された。

わが国の安全保障問題については、訪米前に

米側と十分打ち合わせを行方、1日目の会談で
インソル国務副長官と話し、2日目には

キャンジュー国務長官とも話をし、先長官
との会談では、こちらからね、メモ用紙にて話し

① 有田閣長が外務省長官（三木首相）に、この
 閣議の席上、アムステルダム条約の締結が
 百のオランダ人の署名を必要とする旨を
 述べた。

(2) 有田閣長は、この閣議の席上、
 アムステルダム条約の締結が、
 百のオランダ人の署名を必要とする旨を
 述べた。

(3) 有田閣長は、この閣議の席上、
 アムステルダム条約の締結が、
 百のオランダ人の署名を必要とする旨を
 述べた。

(4) 有田閣長は、この閣議の席上、
 アムステルダム条約の締結が、
 百のオランダ人の署名を必要とする旨を
 述べた。

(5) 有田閣長は、この閣議の席上、
 アムステルダム条約の締結が、
 百のオランダ人の署名を必要とする旨を
 述べた。

合の内容を明確にし、先方もこれに対し
 うろたと答えてくれた。しかし話し合いは
 千二百回頭で行われ、この時におきた。

(列強の冒頭発言の一、二、三の内容について
 ワーデンケまで明確にして双方の確認が

行われ、⁽¹⁾フォード大統領との会見の際もこれらの
 諸点も再確認された。

(2) 有田閣長は、この閣議の席上、

先般三木総理と会った時、総理に、「総理訪米

の際、今次宮沢大臣の訪米に際しての日米関係
 条約に関する話し合いをふまえて共同声明を

出すことを期待している。NPTの批准については、
 党をおさめるにあたってはこれを前提としてい

と考えている」と話し、この時総理も結構だと
 言っていた。大臣の18日の合同会談への説明

1月11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日

1月11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日

1月11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日

1月11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日

1月11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日

1月11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日

1月11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日

1月11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日

1月11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日

1月11日、12日、13日、14日、15日、16日、17日、18日、19日、20日、21日、22日、23日、24日、25日、26日、27日、28日、29日、30日、31日

ではこの点も十分考慮してほしい。総理の訪米の際の共同声明についてFごしらえを

しているぐらいは大臣から明らかにしてほしい。

(右に對し大臣より、ご趣旨よくわかりました、と述べられた。)

(3) 有田会長より国会開会中のことでもあるので野党をあまり刺激したくないという配慮はわかるかと

前置きの上、非核三原則問題及び国内の防衛努力にどう取り組むかに述べた。

(4) われわれ^{(の)前では}非核三原則論が強いがいたずらに国内を刺激することは望ましくない

との観点からあえて非核三原則でしかたがないとの立場である。従って三原則の崩壊に

あてては三原則の方向で対処してほしい

との支持である。

(四) この案に関し 海洋法の改正の要件は
一つの立場であると思う。特に核を「持ち込み

せびの原則については 陸上に限定されていた
のが ~~案~~にまで拡大されているのは問題であ

この案を原案に戻す支持でアッてほしい。

(四) 日本の安全保障は、国内の体制の強化如何に
かかっており、この案についての国内の努力が

不足している(この案について次の二案を指摘した
い (a) 現在の国防会計はあり意味がない

米国の安全保障会計は 閣計以上の重要性を
もっているをみならうべきだ (b) 非常時に

対応するたけ あらかじめのとりへる措置を ~~案~~ ^{おめておく}

~~案~~ ^{がある} ~~案~~ ^{がある} 各省は少しも協力して(ない)。
外務省

[Faint handwritten notes, mostly illegible]

この英をものとけいめをつけるべしと三木総理
にも話し及、総理はそれひょうと云ひ、

(その際総理もこの英について了解したと考
えていかと総理に聞いたら総理は良いと

言つた。FBI ^{外務省} ~~には~~ 言わなくていいこと
だった。

(4) 次いで北沢会長は、日本の自衛力の増強や米軍
の基地利用について日本側の義務を十分守ってゆ

必要がある。安全保障に関する条約は条約が存在
するといふだけでは不十分で、双方の信頼関係に

(*事実上履行され*)

り、条約が ~~履行され~~ なければならぬ。格別この
問題もさういふ観点から考える必要がある。これらの

おぼへん

講義を先般三木総理にも話しておいた(大臣は)
今回訪米の際、坂田長官の依頼があつて、シレ

[Faint handwritten notes, mostly illegible]

ンが一防長官に ^{新日} ~~新日~~ するの) 話してある。同
 長官の来日が実現できれば sea-lane の話が
 儲け
 とりあげられるのではなかろうかと述べられた。

(5) 原子力の平和利用問題について

(4) 有田会長より、国内体制の整備については
 NPT批准
 年内対策を含め、原子力会社に任せず、国内
 の学者を招いて、その強化につとめるべきだ。

査察についてのユーラトム並みの確信と云って
 も、国内査察体制の実体 ~~か~~ であるのでは無意味

味で、早く体制を充実させることが一番急務で
 ある。この点についての 科学技術の見解を 18日
 分

の合同会議で聞きたい。 ~~も~~ だべら。

(4) 北沢会長より、日本の原子力平和利用は、西独
 との間に 格段の差がある。予算をもっとついで
 外務省

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

促進を図るべし。核防条約に入つてこの面で
 外国からの協力をうけられれば、日本の負担
 したい負担は。

3. 今後の党内事情について。
 ① 有田会長は党内にはいろいろとさつち見えて

あり、これまでの合同会評のやりかたに（選挙
 で一人しか集む方の会評で 部長、会長に

一位にあっていふこととして）不満を有している所
 もある。18日の合同会評ではこれらのことを

念頭において注意深くやっていた。特に
 風内体判の [redacted] については、合同会評で
 述べ

話し秘密会であるということにして、大臣の方
 から自発的に [redacted] ふうにすすめてゆくとい

いう決意を明らかにしてほしい。 (官房長官)
 外務省

これにて指摘された点について 大臣の冒頭
発言に 取り込むか、あるいは質問に 対応

答という形で行なうかは、十分検討 (たい
旨発言)

更に 有田会長より 以上自らが指摘した 安全
保障についての 考え方は、いかに 常識論の

方向の点と 述べたので、 官房長より これまでの
議論の結果 ^従 来に 比へると いろいろな 異が

かなり 明確に なつてきた ~~こと~~ 旨
指摘すること 及び 国会等 ~~等~~ 対外説明

振りに ついては ~~従~~ 従来 明らかに されたこと
の 再確認の ワクを 出ておらず 新しいことを

述べたわけではない、との ラインで するの が 賢
明と 思う 旨 指摘) ~~こと~~

(2) 山崎局長より 18日の合同会談に先立ち

口会場で大臣訪米の旨聞か出るので

と聞かれる

自民党より先に ^{訪米} ~~某~~ の成果が明らかになる

こととなるが、その裏了承願いたい旨述べ

右が了承され(この点につき 有田会長より)

国会での議論は 抽象論に終結し)

が、18日の会議は 内輪の話であるので口

内体制の問題につき 大臣が具体的に話さ

れることを希望する旨述べた。

(3) 北沢会長より これまでの党の議論は、い

は秘密会での議論であり、国会の場

においては公開 ~~場~~ で議論することになる。

~~某~~ 国民が 成程 NPT に入ら方がよい

と考えらる。Consensus を得る必要が

[Faint handwritten notes on the left page, mostly illegible due to fading and bleed-through.]

☆(5) 在外官房Eの 定例会以外に 外交部会 を 開催する必要があるが
 ありか 在りにつ 程 此を 事務 として 外交部会 の 開催の
 不 必要 なる旨 確認 された。 ◎

あり) (この案については 三木 総理も そう
 だと言っている、旨 述べた)。

(4) 北次、有田 両 会長とも 副 総裁、幹事長
 等、党の 首脳も 本案件の 国会 提出 について

は 了解 している と思う旨 述べた。 ☆-◎

4. ~~本会議~~ ^{主要} で 取り 上げ られ たい の 他 の 案 次 の
 通り。

④ 有田 会長 等、キッシンジャー 長官 は 日本 が 早く
 この 案を 批准 して ほしい といふ 支持 があるかと

質問 した の に対し、大臣 等 の この 問題 は 日本
 が 自主 的に 判断 する べき 問題 であり、未 だ

表 立 っ て は あり 口 に しか かり たい と 思 っ たり する べ し
 本 心 は 入 っ て ほしい といふ 支持 がある と思 っ たり する

(山崎 局長 等) 米 国 等 の 日本 の 批准 につ いて
 外務省

[Faint handwritten Japanese text, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.]

強い関心を表明している旨説明。

NPT再検討会議における

(2) 北米会長より非核兵器国の安全保障
の問題について米側との間で話し

あつたかと質問されたのに対し、大臣の
答へに説明された。

(4) 再検討会議においてわが国が非核兵器
国の安全保障について重視している事

については先方とかなり長い間話をした。この
問題については非同盟諸国が決定書案
急進的

を出して米につらくあつており、日本はこれ
と同調するわけにはいかならぬ。この問題に

ついては、高橋の立場を微妙であり、いろいろ
と相談しなればならぬ。この問題に

ついてはすでにアメリカ側は日本の考え方を

[Faint handwritten notes, mostly illegible]

[Faint handwritten notes, mostly illegible]

[Faint handwritten notes, mostly illegible]

[Faint handwritten notes, mostly illegible]

[Faint handwritten notes, mostly illegible]

[Faint handwritten notes, mostly illegible]

[Faint handwritten notes, mostly illegible]

[Faint handwritten notes, mostly illegible]

[Faint handwritten notes, mostly illegible]

[Faint handwritten notes, mostly illegible]

[Faint handwritten notes, mostly illegible]

文書で提出してある。その中保理決議の
確認の問題についてはアメリカと語している。

(小崎アメリカ局長より、わが方) 決議案を
米側に提示してあり。米側も日本の
(が余り早く決まることは戦術的考慮から困る)
気持はよくわかると言っている。再検討
会議において現^地で各国の動きも
日本側で緊密に協議して
見守るわけだから慎重にすむめてゆくこと
に存すると説明。

別添

官澤外務大臣訪米に関する冒頭発言

昭和五十年四月十四日
外務省

今回、私は、ワシントンを訪問し、四月十一日キッシンジャー国務長官と会談いたしました。その際わが国の安全保障問題につき次のような話し合いを行いました。

一、まず、私とキッシンジャー国務長官との間で、日米安保条約を引続き維持することは、日米両国の長期的利益に資するものであり、また、米国の核能力は、日本への攻撃に対する重要な抑止力であることが認識されました。

二、この関連でキッシンジャー国務長官は、私に対し、核兵力であれ通常兵力であれ日本への武力攻撃があつた場合、米国は日本を防衛するといふ安保条約に基づく誓約を引続き守る旨確言しました。

取扱注意

[Faint handwritten notes in Japanese, mostly illegible due to fading.]

(a) Although there is a strong argument among us for two non-nuclear principles, we believe that the three non-nuclear principles are unavoidable from the viewpoint that it is not desirable to stir up the country unnecessarily. Therefore, we would like you to deal with the interpretation of the three principles in accordance with the directions of the two non-nuclear principles.

(b) In this regard, I think the timing of the revision of the Law of the Sea will be one of turning points. In particular, regarding the principle of "no introduction" of nuclear weapons, the sticking point is that the principle which was limited to land is being expanded to internal waters. I want you to deal work on the problem in the spirit of going back to the root.

(c) Japan's security depends on to what extent Japan can strengthen the domestic system, and there is a lack of domestic efforts in this regard. (I would like to point out the following two points in this regard (a) The current National Defense Council is of little significance. We should follow the example of the U.S. National Security Council being considered as more important than a cabinet meeting. (b) We need to decide appropriate measures to deal with emergencies in advance. Yet each ministry does not cooperate at all).

I also told Prime Minister Miki that this point should be dealt more clearly, and the Prime Minister agreed. (At that time, I asked the Prime Minister if I could think he understood this, he said yes. However, he asked me not to tell outside)

(4) Next, Chairman Kitazawa said that Japan should fully abide by its obligations regarding the strengthening of its self-defense capabilities and the use of U.S. military bases. The existence of a treaty is not enough for a security treaty; it must be faithfully implemented by mutual trust. The issue of introducing nuclear weapons into Japan should be considered from that perspective. He also mentioned that these points were discussed with Prime Minister Miki. (The Minister said that, upon Minister Sakata's request, he asked Secretary of Defense Schlesinger to visit Japan during his visit to the United States, and the issue of the sea-lane Agreement would be taken up if the Secretary's visit to Japan is realized)

(5) On peaceful use of nuclear energy

(a) Chairman Arita noted that the development of the domestic system should not be left to nuclear companies but should be strengthened with the participation of scholars who oppose the ratification of the NPT. Though there is an argument for securing the same level of inspection as Euratom is meaningless until the substance of the domestic inspection system is established. Most importantly, it is necessary to improve the system as soon as possible. Regarding this issue, he expressed his wish to hear an opinion of the Science and Technology Agency at a joint meeting on the 18th.

(b) Chairman Kitazawa stated that Japan's peaceful use of nuclear energy is significantly behind that of West Germany, Japan should promote it by expanding the budget, and Japan would experience no loss if it entered into the NPT and received cooperation from foreign countries in this regard.

3. On subsequent procedures within the party

(1) Chairman Arita stated that there are various harsh opinions within the party, and some members are dissatisfied with the way in which joint meetings have been held (assuming that Directors and Chairpersons are entrusted at a meeting where only a few people gathered because of an election campaign). The joint meeting on the 18th

should be held cautiously with these points in mind. In particular, regarding the development of the domestic system, I would like the Minister to take the lead to express his determination to promote the development in some way under the assumption the joint meeting is a secret one. (The Deputy Minister stated that he would like to give careful consideration to whether we include the arguments pointed out so far to the Minister's opening statement or in the form of answers to questions. Furthermore, Chairman Arita stated that the above discussions on national

security are sort of common sense. The Deputy Minister said that various points were clarified than before as a result of the discussions so far. He also pointed out that it would be wise to explain to the outside, including the Diet, in line with the argument that there were no new decisions within a framework of reconfirmation of previous decisions.

□□□□□□□□

(2) Director-General Yamazaki stated that prior to the joint meeting on the 18th, it is expected that there will be a question about the Minister's visit to the United States at the Diet session. Thus, the results of the visit will be revealed ahead of Liberal Democratic Party [sic]. It was asked to be understood, and it was accepted. (In this regard, Chairman Arita stated that while discussions in the Diet would end up in generalities, since the meeting on the 18th is a closed session, he would like the Minister to discuss the issue of the domestic system in detail.)

□□□

(3) Chairman Kitazawa said that previous discussions at the party have been held in secret meetings, but in the Diet, it will be discussed in public. It would be necessary to obtain consensus, which would make the public think it would be better to join the NPT. (Prime Minister Miki said the same on this point)

(4) Both Chairmen Kitazawa and Arita said that the leaders of the party, including the Vice-President and the Secretary-General, approved the submission of this matter to the Diet.

(5) The Deputy Minister asked for confirmation as to whether it is necessary to hold a meeting of Foreign Affairs Division in addition to a joint meeting, and it was confirmed that it is unnecessary to hold a meeting of Foreign Affairs Division.

4. Other key points covered in the meeting are as follows:

(1) Mr. Arita asked if Secretary Kissinger wanted Japan to ratify this Treaty as soon as possible. The Minister replied that this issue should be judged independently by Japan and the United States is apparently reluctant to speak out. Nonetheless, we think there is a sense that want Japan to join the NPT. (Director-General Yamazaki explained that the U.S. expressed strong interest in Japan's ratification)

(2) In response to Chairman Kitazawa's question on whether there is a discussion with the U.S. side about the security of non-nuclear weapons states at the NPT Review Conference, the Minister explained as follows:

(a) I talked with the other parties for quite a long time about Japan's emphasis on the security of non-nuclear weapons states at the Review Conference. Non-aligned countries have presented radical proposals to hit the United States hardly., and Japan cannot agree with them. Since each country is in delicate position on this issue, we need to consult various aspects with them. We have already submitted a document to the United States regarding Japan's view on this issue. We are still talking with the United States about the issue of confirming the Security Council resolution.

(Director-General of the American Affairs Bureau Yamazaki explained that Japan presented a resolution to the U.S. side, and the U.S. side understands Japan's feelings while it is tactically troublesome if it is submitted too early. At the Review Conference, while watching on-site the activities of each country, Japan and the United States will closely consult and carefully promote the discussion).